

嶋満神社便り

平成二十七年四月号（第十五号）

発行 嶋満神社奉賛会

そもそも「八幡さん」ってどんな神様？

当社は「浮島の八幡さん」として古くから親しまれています。ではその「八幡さん」とは元々どういう神様なのか、皆様お考えになったことがあるでしょうか？

当社の謂れの看板にはその昔「白糸湾へ外国からの妖族の侵入を禳い除くために宇佐八幡が鎮座した」とあります。

ところが実はこの宇佐八幡は古事記や日本書紀に出てくる日本古来の神様ではなく、朝鮮半島からやってきたいわゆる「渡来神」なのです。

日本で一番多いのは「八幡神社」

「なぜ八幡神社が日本で一番多いのか」島田裕巳著 幻冬社新書 を読んでみました。

さてこの宇佐八幡に始まる八幡信仰：八幡神社が実は我が国の神社の中では一番多いのです。全国約七万九千社のうちの約一割が「八幡さん」だそうです。（以下、伊勢、天神、稲荷と続きます。）

ではなぜ外国からやってきた神様がこんなに日本でメジャーになったのか、それは八幡信仰が「応神天皇」と習合することで天照大御神に次ぐ皇祖神となったからだそうです。



（宇佐八幡宮）

他にも外来の神が祀られ、広く信仰を集めるようになった例は数多くありますが、ここでは割愛します。

歴史的事実で追えば東大寺の大仏建立に大きくかかわることで八幡神は大出世を遂げます。その際に九州宇佐より上京し大和平群郡に迎えられ、これが後の手向山（たむけやま）八幡宮とな

ります。そしてこの八幡宮が東大寺の守護神としての役割を担い、さらに東大寺が全国の国分寺の「総元締め」であったことから、八幡神は全国に勧請され、広まってきました。

さらにそれは宇佐八幡の神宮寺として作られた「弥勒寺」に見られる「弥勒信仰」の発展と轍を一にしたものでもありました。

神功皇后の子である応神天皇が「弥勒菩薩」としてこの世に現れたという信仰がさらに八幡神の地位向上に貢献しました。八幡さんは神であるばかりでなく、仏教の菩薩としての役割も担っていたのです。宇佐氏の氏神と密教の八流の幡の信仰、それに応神天皇が習合して、八幡大菩薩になったとの説もあります。（古田史学会報五十六）

神様でもあり、仏様でもある八幡さんはこうして神仏習合時代の日本国中の信仰を集めることとなったのです。

平安京の裏鬼門を鎮護する意味で貞観元年（八五九）に勧請された石清水八幡宮へ天元二年（九七九）からは天皇の行幸が行われるようになり、伊勢神宮に次ぐ「国家第二の宗廟」：：天皇の祖先を祭る社：：とまで呼ばれるようになります。海外からの侵略を防ぐために延喜二十二年（九二二）に造立された博多の菅崎（はこざき）八幡宮の存在も大きいものがありました。源氏が八幡神を氏神とし鶴岡八幡宮を勧請、足利氏や徳川氏も源氏であったことからさらに武士の神として崇敬を集め、最終的には庶民層にも八幡信仰は広がり、地域の氏神として八幡神を勧請し祀ることに発展していく、という構図になって行ったのです。

古代海部氏の祭祀場であった我が浮島の小山に八幡さんが勧請されたのも、菅崎宮造立と同じ目的であり、貞観年間（九世紀）に正二位の社格を授かり、戦国時代に武人細川氏によって丁重に祀られ、江戸時代には浮島開拓者の氏神としてお祀りされたという当社の歴史も、まさに日本国の宗教史をリアルタイムに体験してきたものと言えるでしょう。

八幡さんのお話、次号に続く！